

柵木環山梨県副知事

創刊三〇〇号を記念して、昨年四月に農林水産省より出向し、女性農業土木技術者として初の副知事に就任した柵木環山梨県副知事に、農業土木を志した動機や農林水産省での業務経験のお話し、そして山梨県農業の今後の展開方向などについて伺いました。インタビューは、女性技術者同士の対談として、大成建設株式の龍尊子さんをお願いしました。



地域資源に恵まれた山梨県

龍 本日は、お忙しいところお時間をいただき、ありがとうございます。今回のインタビューは、本誌「土地改良」が昭和三十八年八月に創刊されて以来、この一月号で創刊三〇〇号を迎えるということで、特別企画としてお願いするものです。副知事とは、以前、本誌二八八号の女性技術者の座談会で御一緒させていただいておりますが、山梨県副知事になられてから今回初めてお会いすることができ、大変光栄に存じます。

柵木 こちらこそ。山梨までお越しいただきありがとうございます。昭和三十八年の創刊ということとは五〇年以上の歴史があるということですね。光栄です。

龍 山梨県に赴任されてからの生活はいかがですか。

柵木 山梨県は、個人的にも観光でよく来ておりましたので、親しみを感じていました。こちらに来て仕事をしてみると、予想以上にとても豊かで、多様な地域資源があることを知り、感動しています。皆さんがご存知の通り、世界文化遺産の富士山をはじめ南アルプス、八ヶ岳など日本の名峰と謳われる山々が美しい景観を形成しています。そこに降った雨がおいしい水として流れ出てさらに豊かな自然を生み出しています。

そして、日照時間が日本一といった風土に加え、農業者の方々が丹精込めて農産物を作っているの



左：柵木環副知事

右：龍尊子

で、他で味わえないようなとても美味しいものがたくさんあります。果物はもちろん野菜、そして、お米も梨北米などのブランド米があります。さらに甲州牛、甲州富士桜ポーク、甲州地鶏なども特産品になっています。龍さんのお好きなワインも日本で一番ワイナリーが多いので飲みきれないほどの種類のワインがあります。

また、山梨は日本一のジュエリーの産地であり、甲斐絹をルーツに持つ高級織物、甲州印伝、印章、和紙など、様々な地場産業があります。

龍 副知事は、山梨県庁の中で主にどのような行政分野を担当されているのですか。

柵木 副知事は吉原副知事と私の二人体制です。私は主に人口減少対策、子育て支援、このほか、森林環境や地域産業振興、観光、農政などを担当しています。分からないことが多いので、吉原副知事に教えていただきながら対応しております。

龍 ずいぶん分野が広いのですが、初めは戸惑いみたいなことはありませんでしたか。

柵木 全てが戸惑うことばかりです。これまでは農政の中の土地改良事業に限られておりましたが、今度は、広範囲にわたり担当することになり、仕事の内容もやり方も異なるので、いつも戸惑いながらも勉強しつつ取り組んでいるところです。ですから、なるべく現場を見せてもらおうようお願いしております。先日、ジュエリーの生産現場にも行かせていただきました。ジュエリーの技術には三種類あり、一つは石を研磨する技術、二つ目は貴金属を加工する技術、三つ目は水晶の彫刻技術です。それぞれの職人のところへ行きましたが、本当に丁寧な仕事をされていて、ジュエリーがなぜ高いかが分かりました。

江戸時代からの甲州八珍果

龍 幅広く活躍されている様子がよく分かりました。副知事は、農林水産省からご出向されているので、やはり農業のことが一番気がかりではな



たわわに実った甲州の葡萄畑

いかと思います。山梨県というと、ブドウやモモのイメージが強いですが、山梨県の農業の特徴は、どういふところにあるのですか。

柵木 言われるように、ブドウなど果樹が農産生産額の半分以上を占めています。昨年度の農産生産額は九五八億円で、うち五六%が果樹、次に野菜の一五%、畜産一四%の順です。

ブドウは古くから生産されていて、それにまつわるいろいろな伝説があります。一番古いものは、僧侶の行基が七一八年に勝沼に來られた時、夢に



南アルプスを背景に広がる桃とスモモの畑

できてきた薬師如来が菓の壺ではなくブドウを持っていらしたことから、ブドウを広められたそうです。実際に商業ベースで生産されたのは江戸時代で、甲州街道を使いブドウを江戸の青果問屋まで運んだそうです。その頃、葡萄のほか桃、梨、柿、栗、林檎、石榴、銀杏（または胡桃）といった「甲州八珍果」が山梨から運ばれていたようです。その後、ブドウ、モモの生産が非常に伸び、日本一を誇っています。

実は、スモモも日本一の生産量です。私はこち

らに来てから山梨県産のスモモを食べましたが、驚くほどに美味しいです。それには、県の果樹試験場の役割も大きく、モモ、スモモ、ブドウ、などの品種改良を次から次へと行い、おいしい果物の苗木を作ったり、栽培技術の研究が行われています。

歴史ある笛吹川、釜無川の かんがい技術

龍 インタビューに際し、事前に勉強を兼ねて笛吹川と釜無川を回らせていただきましたが、笛吹川の沿岸ではブドウ畑の広がりを感じました。国営事業の歴史も古いとお伺いしておりますが……。

柵木 まず、笛吹川地区は、甲府盆地の果樹地帯を受益として甲府市をはじめ五市一町に跨る約四千haの農地に用水供給しています。国営事業により昭和四十六年から六十三年にかけて幹線水路、用水機場が整備されました。現在、これらは老朽化が進んでいますので、改修が行われています。山梨は降水量が少ないところで水に苦労した地域でもありますので、このような国営事業により水利施設が整備されることで農業生産が安定するとともに、作目の選択幅も広がり、いろいろな農業が展開できるようになってきています。この地域は、「日本農業遺産」にも認定され、次は「世界農業遺産」を目指しています。

龍 釜無川地区も、国営事業で整備されたのですよね。



釜無川の徳島堰

柵木 はい。釜無川地区は、県の北西に位置する韮崎市と南アルプス市に跨る約二千haの水田、畑が受益地となっています。昭和四十年から四十九年にかけて頭首工と水路、調整池が国営で整備されました。現在、笛吹川地区と同様に老朽化に伴う機能保全対策が行われており、平成三十四年に改修が完了する予定です。

水田の開墾の歴史は古く江戸時代にさかのぼります。江戸深川の商人であった徳島兵左衛門が身延山に参拝に来られた際、釜無川の右岸の荒地を

見て、水を引いて豊かな農地にしたいとの思いに駆られ、幾多の苦勞を乗り越えて、開墾されました。その時に造られた堰が徳島堰ですが、それを国营事業として再編して、上水道の整備と併せて下流の樹園地まで用水を供給しました。その地域は「月夜でも焼ける」と言われたほどの干ばつ地帯で、国营事業の着工に地域の方は大変喜ばれ、新たな農業が展開されたと聞いております。

龍 私も、現地に行ってみました。用水路の上の方は山林で、下の方は見事な水田と畑があつて、まさにその全景が、先人の方々が創られた農業用水の恵みを表しているような印象を持ちました。

ここら辺から見ると（地図を広げて確認）、釜無川にかけて段々と畑が広がる景色は、先人のご苦勞を偲ばせるものがあり、思わず写真も撮りました。彼岸花がきれいでした。

柵木 釜無川地区の水田では、先程申しました梨北米が生産され、高価格で販売されています。山梨県内のセブンイレブンでは、おにぎりは梨北米を使用していますので、是非ご賞味ください。

龍 寒暖差が大きいので、きつとおいしいお米だろうと……。

柵木 山梨でとれた農産物は、何を食べてもとても美味しいです（笑）。

スポーツ好きの理系女子、
防火水槽で水泳

龍 副知事の学生時代から農林水産省入省までの

経歴をお伺いしたと思います。どうして土地改良の世界に入られたのかも含めて。

柵木 私は三重県出身で、祖父は主に農業に携わり、父は土木の仕事をしていました。私は子どもの頃から、外で遊ぶことが好きで、スポーツなんでも得意でした。国語が苦手で、高校は理数系の学科に進学したこともあり、大学も理系と考えました。

北海道大学は入学後に専攻を決める仕組みでしたので、入学後、専攻を何にするか、いろいろ迷いました。父の仕事柄、子供の頃から土木を身近に感じていたことと、人が生きて行く為の基本である、食に関わる仕事に就きたいとの思いがあつ

たことから、農業土木を専攻しました。

龍 学生時代はどのような生活を送られていたか。

柵木 子供の時から、特に水泳が得意でしたので、大学では水泳部に入りました。北大は寒いところですので、プールはありませんでした。それで、二五mぐらいの大きさがある防火水槽で練習をしていました。私以外は、女性部員はマネージャーのみでしたので、一年目は練習に時々顔を出す程度でした。二年目には後輩の女性が入り、私もまじめにやらねばと思い、その女性部員とともに水泳に励みました。

龍 屋外のプールではなく防火水槽で……。

柵木 はい。夏は防火水槽でボウフラと一緒に泳ぎました。本当ですよ（笑）。

龍 冬はどうしたのですか？

柵木 冬はですね、優秀な部員が新しくできたスポーツジムでプールの監視のアルバイトをする代わりに、そのプールを練習に使わせてもらうことで話をつけてきて、私もそこでアルバイトをしながら練習しました。これが冬場の練習です。

龍 すごいですね。大学では、どのような研究をなさっていたのですか。

柵木 私は大学院まで行きましたが、学部では水田水温の研究をしました。間断かんがいをするこゝとで水田内の水温は高まりますが、実際にどのようになら高まっていくのか、どういう温度分布になっているのかを分析しました。

学部で指導頂いた教授が退官されたので、大学



院では、現在は名誉教授でいらっしやる梅田先生、長澤先生に指導を受けました。そのテーマは侵食(erosion)でした。北海道特有の地面の凍結による土壌の構造変化とそれによる融雪期の侵食を分析しました。土が凍結すると団粒構造が崩れ、雨や融雪によって流されやすい構造となり、改良山成畑では起伏の一番低いところで侵食が生じやすくなりますが、そういう現象の原因究明を行いました。

学科設置以来、三人目の女子学生

龍 当時、農業土木を専攻されている女性は少なかったのではないですか。

柵木 大学では学科ができてから、女性は私で三人目でした。

龍 同じ学年に女性はいらっしゃいましたか？

柵木 初めはいませんでした。途中、林産学科から編入した女性がいらしたので、二人になりました。

龍 当時は、理工系自体に女性が少なかったですね。

柵木 龍さんの頃はとうですか。

龍 私の大学では一〇八人中、女性は四人でした。理工学部ということもあって、全体的に女性は少ないですね、四人も入るのは快挙と言われました。

柵木 どうして土木工学科を選ばれたのですか。

龍 やはり父が農業土木関係でしたので、小さい

ころからダムやトンネルなどを見に連れていってもらっていましたから、建設業界に対する抵抗感はありませんでした。大学を選ぶ時、ちょうど東京湾沿岸部のウォーターフロント開発などが流行った時期とも重なり、当初、都市づくりみたいなものに興味を持ちました。

大学に入学しましたら、社会基盤を整備するための学問というのを意識し、橋の研究室に入り、ものづくりに興味が出てきました。

柵木 そういうことですか。何か似ているところがありますね。

龍 そうですね。私も理数系の科目の方が好きでした。副知事は、大学を卒業された後、なぜ農林水産省を就職先に選ばれたのですか。

柵木 北大のOBには、北海道開発局、北海道庁の方々が多く、時々大学に講義に来てくださることがありました。その先輩から、海外協力も含め、国家公務員は魅力的な仕事をしていることをお聞きし、農業土木という専攻を活かして素晴らしい仕事ができるのは国家公務員だ、と思い込んで現在に至っているわけです。

本省採用三人目の女性農業土木技術者

龍 当時、国家公務員も男性社会で女性が少なかったと思いますが、その時に女性の先輩がいなくて困ったということはありませんでしたか？

柵木 私は、本省採用の農業土木技官としては女

性で三人目でした。まだ、その存在が珍しい時期でした。先輩から、夜遅くまで働くのは当たり前だということを聞いていましたが、入省してみると他課の人から「女性がこんなに遅くまで働いていいの」と聞かれることもありました。それが不思議で「ダメなのですか」と聞き返したくらいです。男性と同等の働き方が当然だと思っていましたので、認識にギャップのある人もいるのだと、若干違和感がありました。

龍 苦労した面はありますか。

柵木 あまり苦労は感じません。女性であることでのいろいろなところに参加させていただいたりしていますので、有難いです。

あえて申しますと、入省して一年目の時に、地方の事業所から上京された先輩に、「僕は女性の上司のもとで働くのはいやだな」と言われたことがあります。それがなんとなくずつと引かかっています。私が部下を持つようになった時、いつもそれを思い出し、「この人たちは、イヤだと思っていますのだろうな」と思ってしまう。でも、部下の皆さんはそのような素振りを見せず一生懸命働いていただいていますので、有難く仕事をさせていただいております。

龍 私の経験では、新入社員の頃、出張の申請書を会社の管理室に出したら、「どうして女性が出張に行くのか」と、上司に確認があり、戸惑ったところがありました。先程の残業のお話にも通ずるところがありますね。今では信じられない話ですが。

トンネルはなぜか女性NG

柵木 女性だからできないというのは、私自身にはありませんでしたが、周りがそう思っていた部分はあったと思います。例えば、入省一年目に現場への出張がありました。そこはトンネルの掘削現場で危険だと気遣ってくれたのでしようが、私はトンネルに入れませんでした。

その話を二年目に異動になった現場の事業所の人に行きましたら、トンネルの工事現場に入れてくれました。しかし、最先端で掘削している人たちから「誰だ、女を入れたのは！」という怒号が聞こえて、さすがにびびりました。それと発破を仕掛けたときに入ったのでその振動が心臓にドンときて、やはり危険な現場だと実感し、こういう中に女性を入れない理由が分かるような気がいたしました。その後聞いたことによると、女性の声は甲高いので木製の支保工のきしみの音と判別できず、危険の察知ができないため、女性は入れないという話もあるそうです。

龍 労働基準法の改正もあり、時代も徐々に変わり、今ではトンネルに女性が入ることはそれほど珍しいことではなくなりましたね。余談ですが、私が聞いたところによりますと、女性が入ると中にいる男性陣が浮ついて仕事に集中できなくなる、という話です（笑）。

柵木 それはあるかも知れませんが（笑）。
龍 国営事業所では最初はこの現場に行かれた

のですか。

柵木 最初の現場は、先ほどのトンネルの中に入れていただいたところで、大淀川農業水利事業所です。天神ダムを造成し、水田への用水補給と畑にかんがいする地区でした。所長が理解ある方で、いろいろなことを経験させていただきました。担当は、予算要求、測量や設計の発注、計画変更などの業務が中心でしたが、工事も積算から現場監督までさせていただきました。ただ、当時は丁寧に仕事を教えてもらえる環境ではなく、上司の仕事を覚えて覚えるという時代でしたから、十分に理解せずにやって失敗することが多く、上司はハラハラしながら仕事をされていたと思います。

初めての現場勤務でしたので、モノができる素晴らしさを理解することができました。自分が設計・積算・発注・監督したモノがどんな形になっているのが目に見えて、何かすごいことをしているのだからと感じつつ、とても楽しく仕事をしていました。

困難な課題でも出口はある

龍 現場の事務所の課長も経験されていらっしやいますよね。

柵木 はい。近畿農政局淀川水系土地改良管理事務所の計画課長が初めての管理職でした。そこでは、主にダムや頭首工の改修工事の調査計画をしました。

ダム直下の集落は、水源は元々あるので、ダムの恩恵はないにもかかわらず、ダムが近くにあることで放流時の振動や騒音があるため、ダムを撤去してほしいとの思いが強くなりました。そういう方々にダム改修の必要性をどのように理解してもらうか、農政局設計課や防災課なども巻き込んで、皆で議論しながら取り組みました。何回も何回も地元に通ってお話をするうちに、だんだん地元の方々の理解も深まり、最終的には改修の合意を得ました。難しい課題でも出口がある、解決策があるということを実感できました。この経験が、その後の私の仕事の仕方に大きな影響を与えています。

龍 土地改良の仕事は、国、県、市町村、土地改良区、さらに、農家、近隣の住民など皆さんの協力なしでは進められないことは、施工する側でも感じます。そういうところが土地改良の大きな特徴だと思えます。

東北農政局で3・11を経験

龍 ところで、東日本大震災の時に、副知事は仙台におられたと伺っています。

柵木 東北農政局の水利整備課長に就任して二年目の三月に東日本大震災が発災し、地震はもちろん、その直後の復旧対応も経験しました。振り返ってみますと、発災直後の初動対応は反省すべき点ばかりです。本来、地震発生直後に主要施設であ

るダムや頭首工等については、それを管理している土地改良区等に点検結果を報告してもらおう必要がありますが、合同庁舎も被災しましたので執務室の中に入れて、連絡体制が取れなくなりました。それで、本省にその状況を伝え、対応をお願いしたわけです。本省に連絡がつかなければどうなっていたのだろう、と思うと怖ろしくなります。

龍 停電はなかったのですか。

柵木 もちろん震災直後は停電になりましたが、庁舎には自家発電が設けられていて夜七時ぐらまではもつということでした。我々の六階、七階の執務室には入れませんでした。一階の守衛室は機能してましたので、その電話を使い、必要最小限のやりとりをしました。本省への対応のほかに、設計課長と分担し、電話で東北管内六県に被災状況の確認をしました。また、直轄管理の羽鳥ダム（福島県）が被災したとの連絡が入りましたが、ダム管理所長との連絡もままならない状況でした。直後の対応は、ダム管理所長の現場判断に委ねるところが大きかったです。

自家発電が切れる七時以降は、宮城県庁に移り震災後の対応に当たりました。あまりにも被害が大きくて何から手を付けたらよいのか、本当に頭の中が真っ白な状態でした。整備部長の指示の下、まずやれるものからやるということで、仕事の優先順位を確認し取り掛かることにしました。

最初に手掛けたのが先ほどの羽鳥ダムです。現場の確認と応急対応です。翌日、防災課が現場に直行し、農村工学研究所からもダムのプロに来て

いただき、被災状況確認や被災箇所亀裂にブルーシートをかけるなどの応急対応をしてもらいました。

また、津波被災地域については、何をすべきか皆で話し合いましたが、その時、福島県南相馬市から排水ポンプ貸与の依頼の電話が入りました。その後、宮城県からも貸し出しの依頼があり、次に行った仕事は、津波で被災した排水機場への排水ポンプの配置を皆で手分けして行いました。東北農政局のポンプだけでは足りず、全国の農政局からもポンプを借り津波被災地に配置しました。

お風呂にも入れず現場を奔走

龍 何日もお風呂に入れず現場を奔走していたというお話も聞いておりますが。

柵木 あの頃は土日もなしで、皆さん働いていましたね。湛水地域の排水や瓦礫処理などはスピードが要求されました。瓦礫処理の工事発注などはこれまで経験のないものでしたので、歩掛りをどうするか、担当者は夜通し議論して発注までもっていきました。

私の宿舎では、震災の翌日には電気と水道は復旧しましたが、ガスは復旧まで約二か月かかりましたので、確かにその間はお風呂には入れませんでした。でも、水も電気もありましたので、鍋式のホットプレートで一〇回ぐらいお湯を沸かし、体を洗ったりしていましたので、決して不衛生な

生活ではなかったんですよ（笑）。

龍 それぐらいの意気込みでやっていらっしゃったと。

柵木 皆さんそうでした。総動員で取り組みました。東北農政局の人々の力強さを感じました。また、応援団も全国からたくさん来ていただきました。都道府県や農政局から技術者を派遣していただくなど、本当に有り難かったですね。農村工学研究所にも早い時期から現地でいろいろなアドバイスをいただきました。今でも感謝の気持ちは忘れないです。

それと、津波被災地域の農家の皆さんは、被災直後はガレキの山となった農地を見て営農再開をあきらめていましたが、復旧工事が進むにつれて、やる気を取り戻されていくのを目のあたりにし、農業土木の力はすごいなと思いました。

我々の仕事はものを動かすだけでなく、人の心も動かす力があるのです。

本省では福島除染対策に取り組み

龍 その後本省に戻られてから、福島除染の問題に取り組みされました。ため池の除染なども大変な課題だったと思いますが。

柵木 本省に戻ってからは福島除染の復興を担当させていただきました。特に、避難指示区域の中は、津波被災もありましたが、原発による放射性物質の影響もあって復旧作業が遅れ、大変な状



東北大地震で被災した福島県大柵ダムの試掘調査

況になっていました。

除染に関しては環境省の所管でしたが、農地の除染方法については、農林水産省と農村工学研究所が一緒にマニュアルを作って、環境省の除染に協力していました。

一方、ため池や水路については、除染の取り扱いは方針が決っていませんでした。しかし、現にそこには放射性物質があるわけですから、農家の方がとても心配されていたので、何とか解決すべき

だということ、当時の齊藤整備部長の指導の下、放射性物質の対策に取り組みました。

まず、ため池や水路にどのくらいの放射性物質が溜まっているのか、その実態の把握からスタートしました。溜まっている状況、それがどのように影響するのか、影響を少なくするにはどうしたらよいか、こういったことを順次検討しました。この時も、農村工学研究所や農業農村工学会等専門家の方々にアドバイスをいただきましたし、復興庁とも連携して何か対策を講じられないか、みんなで議論しながら取り組みました。

結論から言えば、ため池や水路の放射性物質の対策については、農林水産省が復興庁の予算で補助事業を創設し、県、市町村に取り組んでもらう仕組みを創りました。

龍 現地にも行かれたのですか。

柵木 そうですね、福島担当になってからは、毎月のように福島に通っておりました。県の方と一緒にやって取り組んだので、かなりの頻度で福島に行きました。放射性物質に関しては、福島県内の住民の方々は被害を被った側なので、国に対して苦情を言われる方が多かったです。さきほどのダムの改修の時と同様、こちらが一生懸命取り組んでいることを理解していただき、一緒にやって取り組んでもらえる環境までもっていかれたと思っています。

龍 そういう時、いつも心掛けていることはありますか。

柵木 やはり、一緒に話し合い議論をするという

過程を大事にしました。

多面的機能支払の現場で草刈り

龍 山梨県に來られる直前は、本省の多面的機能支払の担当室長でしたね。多面的機能支払は、水田の共同活動のイメージが強いのですが、山梨県でも相当進んでいるのですか。

柵木 山梨県の農地は三割が水田で、残りの七割は果樹園などの畑です。多面的機能支払は、どちらかというと、水田の地域ぐるみの共同活動が中心なので、そういう意味では山梨での取組は難しいところがあります。これまで県と市町村が連携しながら取り組んでおり、県全体のカバー率は三〇%です。この数字は高いとは言えませんが、中山間地域も多く、水田の少ないところでありながら、ここまでやっていたというのは有り難いことだと思っています。今後、県としては、活動組織の広域化と併せて、周辺の農地も一緒に取り込むことで取組面積の拡大をしていきたいと考えています。

龍 水田が少ないのに三分の一の農地で取り組んでいるというのは、立派ですね。

やはり、これも現地に行かれているのですか。

柵木 はい。こちらに來てから、北杜市の活動組織にお伺いし、一緒に草刈りをさせていただきました。県で多面的機能支払を担当している八巻課長の指導を受けながら初めて草刈り機を使いま

た。本当によく刈れてとても気持ち良かったです。我々の仕事はすぐに成果が表われにくいことが多いのですが、草刈はすぐに成果がでるのでいいですよ。

龍 副知事が草刈りに参加するなんて、周りの方はびっくりなさったのでは？

柵木 八巻課長に地元集落の活動組織と調整をさせていただいたお陰で、実現できました。草刈り機も各自で持参ですので、八巻課長が私の分もどこかで調達されるなど、すごく迷惑をおかけしながら参加した次第です。その後、「また、お願いしますね」とお伝えしたのですが、一向に声がかからないのは、やはり大変だったのではないかと思えます（笑）。

草刈りの休憩中に農家の方とお話をする機会があり、「これから農業はどうしたらよいか」といった相談を受けました。

龍 生の声ですね。

柵木 はい。生の声を聞くことができますから、これからも参加させていただきたいですね。北杜市は、若い就農者の方もいらっしゃるのですが、将来に不安を感じる声もありましたので、地域として皆で農業の将来について議論することが重要ではないでしょうか。

龍 ところで、山梨県では土地改良で太陽光発電にも取り組んできたと同っています。

柵木 国営の笛吹川地区にはファームポンドがいくつもありますが、そのうちの三カ所は、県営で屋根の上に太陽光発電のパネルを設置して、用水



日本型直接支払活動組織と草刈り（山梨県北杜市）

施設の電気料の節減や環境にやさしい取組を行っています。平成二十三年度から供用開始、年間一五万八、二二五kwを発電しています。これは四四世帯分の電気量に相当します。山梨は日照時間が長いので、太陽光発電には適した地域ですので、国営や土地改良区営でも太陽光発電のパネルを設置しています。

甲州種は欧州系のワイン

柵木 ワインのPRをさせていただきますと、笛吹川の受益の中には、県の果樹試験場があります。それ以外に甲州市が直営している「勝沼ぶどうの丘」があります。そこには二〇〇銘柄、四万本のワインがあるそうです。好みのワインを選んで食事のできるワインレストランがあったり、宿泊施設や温泉、さらに美術館もあり、年間六〇万人以上のお客さんが訪れています。ちなみに、「勝沼ぶどうの丘」の中にある公園は、水環境整備事業でつくられました。

ところで、日本におけるワインの生産量一位は、どこかご存じですか。実は、神奈川県なのです。

龍 え、本当ですか、意外ですね。

柵木 ただし、神奈川県は、海外の原料も多く使っているのですが、国内産のブドウに限定して生産される日本ワインでみると、山梨が一位になります。特に、山梨のワインで有名なのは甲州種の白ワインです。飲まれたことはありませんか。

龍 山梨県のPRセンターのようなものが東京駅の近くにあつて……。

柵木 はい、日本橋にあるアンテナショップ「富士の国 やまなし館」ですね。

龍 二階のレストラン「Y-wine」という田崎真也さんプロデュースのお店に行ったことがあります。グループで行きましたが、山梨県産ワインが美味しく勧められるままに、ずいぶん沢山飲んで



ワインレストランや美術館、温泉も楽しめるぶどうの丘（甲州市勝沼）

だような気がします（笑）。
柵木 相当飲んで頂いたのですね、ありがとうございます（笑）。ワインづくりはブドウづくりからと言われており、ブドウの出来によってワインの出来が決まるそうです。ブドウにはいろいろな種類があつて、甲州種以外に、例えばシャルドネとかセミヨンなどがあります。ブドウの種類を大きく区分すると、ヨーロッパ系、アメリカ系、野生種の三つがあります。甲州種は、カスピ海沿岸

が原産地とされ、シルクロードを経て中国を経由して、何百年、何千年もかけてアジア系の野生種と交雑しながら日本に伝わった種類だそうです。ので、甲州種はヨーロッパ系ブドウに分類されま

国産ワインコンクールで海外に売れるワインを

龍 江戸時代から栽培していたのが、この甲州種のことですか。

柵木 甲州種は、江戸時代よりも前から栽培されてきました。

ヨーロッパの人々は、ヨーロッパ系のブドウからできたワインを好まれ、アメリカ系のブドウのワインは「FOXY」といって、好まないそうです。山梨の甲州種のワインはヨーロッパ系のブドウでつくられるので、イギリスやフランスなどでも高く評価され、コンクールでも入賞しています。山梨では明治初期からワインの醸造に取り組み、フランスに青年を派遣し、その技術を学ばせたそうです。現在は、その頃に比べ、ワインの質が格段に高くなっていますが、その大きなポイントは、平成十五年から始まった日本産のブドウを使った国産ワインのコンクールによる影響だそうです。コンクールでの評価を踏まえ、ワイン醸造家は、品質と独自のこだわり、さらに日本だけでなく海外にも売れるワインを考え始めたという聞いております。他県にも声かけし、コンクール開催を企画し

た山梨県の取組が大きな効果を出しているのです。
龍 毎日新聞社元編集委員の西川恵氏の「歴代首相のおもてなし」の中に、サミットの晩餐会に日本のワインを初めて出す時に、山梨県の主催するコンクールで入賞したワインから選んだというエピソードが紹介されています。
柵木 十一月に来日したトランプ米大統領に赤坂の迎賓館で振る舞われたワインもそのコンクールで受賞した山梨ワインです。

今後の山梨県農業の戦略

龍 山梨県は、今までやっていないことにチャレンジする力がすごいですね。さて、今後の山梨県農業の戦略についてお聞かせください。

柵木 山梨県では、「新・やまなし農業大綱」を平成二十七年十二月に策定しました。地域の魅力の原動力「やまなし農業」の実現を目指しています。山梨は観光県でもあり、美しい景観や素敵な工芸品など多くの観光資源がありますが、それに加え農産物が重要な観光資源となっています。このため、地域の魅力アップにつながる「やまなし農業」の実現に向けて、農産物の高品質化・販路開拓による儲かる農業の展開、さらには活気に満ちあふれた農山村の創造を目標としています。

具体的には高品質化は、例えば、先程のワインの話と関連しますが、ワイン酒造組合等とも連携してより高品質の醸造用ブドウ生産の拡大に取り組



桃の選果場を視察（山梨県山梨市）

んでいます。県自らが、新しく醸造用ブドウを生産する候補地を調査したり、醸造用ブドウをつくるための基盤の整備などを行っています。醸造用ブドウは、生食用のブドウに比べ単価が非常に安く、シャイマスカットは1kg一六〇〇円、高いと二〇〇〇円程ですが、醸造用ブドウは1kg二五〇円ぐらいです。このため、農業者の方は醸造用ブドウよりも生食用ブドウを作りますから、現在、醸造用ブドウが足りない状況です。それで醸造用ブドウの生産地を整備し、品質と生産性の向上を

図る必要があるわけです。「日本ワイン」と表示するには国内で生産されているブドウを使わなければならぬので、一番危機感を感じているのはワイナリーで、自らがブドウを栽培し始めています。それを県が支援しています。

龍 農業振興の基礎となる基盤整備は、今後どのように進めるのですか。

柵木 山梨はモモ狩り、ブドウ狩りなど観光農業も盛んなのですが、その発展に寄与したのが広域農道です。起伏の中域ぐらいに広域農道が整備され、丘と丘をつないでいますので、隣の樹園地への行き来にも便利です。集出荷場、さらには高速道路を使って農産物を出荷するのにも便利です。今後も、残りの区間の整備を進め作業の効率性を高めていきます。

また、山梨県は企業の農業参入にも積極的に取り組んでいます。荒廃農地の基盤整備を契機に、企業が大規模な施設園芸などに取り組むようになってきています。

さらに、地域の魅力ある農産物の生産拡大も進めています。例えば、身延町の「あけぼの大豆」は普通の大豆の倍以上の大きさで、そこでしか採れない特産品ですので、生産拡大を図るため、農地の基盤整備や集出荷施設の整備などを実施しています。山梨は、ワインだけでなく、日本酒も美味しいところですので、酒米を作るための基盤整備もしています。いずれにしろ山梨県は、出口をしっかり見据えた基盤整備に取り組んでいるのが特徴です。



峡南地域活躍女性との意見交換会

外国人を含む観光客をターゲットに 情報発信

龍 六次産業化への取組はどうでしょうか。

柵木 もちろん、六次産業化にも積極的に取り組んでおります。甲府駅にある「やまなしレイルマルシェ」の開設や、六次産業化商品の販売を支援しています。商品開発の監修を小泉武夫・東京農業大学名誉教授にお願いし、アドバイスをいただきながら改良を加え六次産業化の取組を支援して

います。

そのほか、農泊などにも力を入れ、今年は国の補助金で三地区指定を受けましたので、そういうところの取組も拡大していきたいですね。

龍 山梨県は首都圏からのアクセスもよく、とても有利ですね。

柵木 そうですね、たくさんのお客客の皆さんに来ていただいているのですが、東京からの距離が近いこともあり日帰りの観光客が多いのも実態です。農泊が充実すれば、泊まっていただけの方も増えると思います。

最近では、海外からのお客客も多いです。富士山が世界文化遺産に登録されましたし、富士吉田市の新倉山浅間公園を訪れたタイ人が忠霊塔という五重塔と富士山、桜の三つを組み合わせた美しい写真を撮ってフェイスブックで紹介したことにより、世界各地の方々がそれを見て、そこに観光に来られる外国人が増えています。

龍 やはり今は、インスタグラムなどSNSの時代ですよ。素敵な写真があると、それを求めて観光に来るわけです。

柵木 そうですね。多くの方に、山梨県の魅力を知ってもらおうと、現在、市町村女性職員と、県内の魅力的な景観や暮らしなどを紹介する写真集を作っています。第一弾を年度内にとりまとめ、HPなどで情報発信しようと考えています。それを見られた方々が、「山梨県に観光に行きたい」とか、「山梨県に住みたい」と感じるものにしたと思います。



まぜぎ たまき
柵木 環

北海道大学農学部農業工学科を卒業し、農林水産省に昭和62年入省。平成21年に東北農政局水利整備課長、平成24年からは本省で福島復旧復興対策調整官、多面的機能支払推進室長などを経験。現在は、山梨県副知事として、後藤齋知事が目指す「輝き あんしん プラチナ社会」の実現に向けて、女性の視点を活かしながら知事を補佐。他機関や民間企業の方々との無^も限^もにも積極的に参加し交流を深めている。また、県庁テニス部に入部し健康管理。平成7年に国、地方公共団体、民間企業等の女性農業土木技術者と結成した「農業農村を考えるレディーズネット(通称ひまわり会)」の会長も務める。

りょう たかこ
龍 尊子

早稲田大学理工学部土木工学科を卒業し、平成5年に大成建設入社。土木設計部橋梁設計室を経て、育児休業からの復帰を機に、平成14年に土木営業本部へ異動。現在は、同本部の営業部副部長。「土木技術者女性の会」の前事務局長。高1女子の母。趣味は、スキー、スキューバダイビング。

龍 今後とも、そのような魅力がたっぷり詰まっている山梨が、大いに発展を遂げていくことになりそうですね。

柵木 そのために、精一杯、副知事としての職責を全うしていきたいと思っています。

龍 副知事には、これまでの農林水産省での蓄積

を活かし、女性技術者の代表として活躍いただきたいと思えますし、私たちも応援して参ります。お忙しいところ、貴重な時間を割いていただき、ありがとうございます。

柵木 こちらこそ、お世話になりました。ありがとうございます。